

オウル市・教育課 訪問

～担当者によるイントロダクション～

祐天寺附属幼稚園 副園長 藤木 奈々

1 はじめに

私立学校教員海外研修団は、2025年9月8日、オウル市のあらゆるサービスに関する情報、ガイダンス、アドバイスを提供する施設『OULU 10』を訪問し、教育課の Maikki Manninen 氏よりフィンランド教育システムについて説明を受けた。オウル市は、北フィンランドに位置し、オウル大学やオウル応用科学大学などがある学生都市であると同時に、新たな教育哲学を生み出し先駆的に取り入れている最先端の教育都市である。



OULU 10

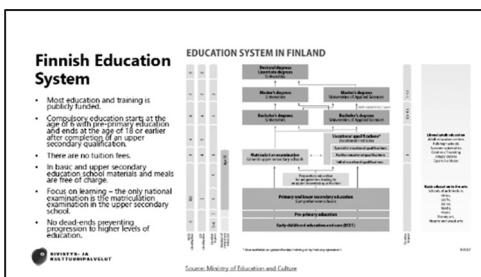


Maikki Manninen 氏

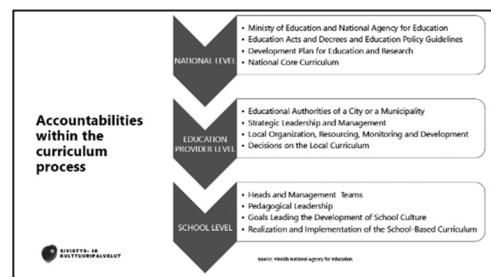
2 フィンランドの教育について

フィンランドの教育は、歴史的に見てもポジティブな考え方で信頼・平等・責任感を大切にしている。一番重要なのは生徒個々のニーズ（レベル）に合わせた教育、ウェルビーイングを大切にした教育であり、すべての子どもが質の高い教育を受ける権利を持ち、6歳から18歳までの教育が無償で提供される（下左表）。公立校が多いが私立校も教育は無償であり、授業料以外にも教材・給食・遠足等もすべて無償である。

カリキュラムは国が決めるコアカリキュラムを基に、自治体・学校と細分化され（下右表）、個々に合わせたものを作成していく。また校長ひとりに責任がかかるのではなく、数人の副校長とともに複数人が責任を持って運営しているのも、フィンランド教育の特徴である。



フィンランドの教育制度



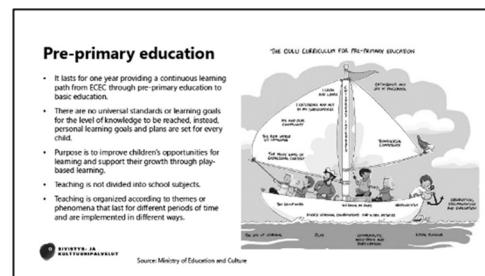
フィンランドの教育課程

フィンランドの教師は、教育学部で学士課程を経た後、2年間の修士課程を修了する必要があるため、高い専門性を持ち授業の自由度が高い。さらに、その専門性を維持するため最新の教育理論や実践を学び続けるシステムが構築されており、社会的地位が高くとても信頼されている。

3 フィンランドの幼児教育・就学前教育

フィンランドには ECEC (Early Childhood Education and Care) という就学前児に教育と保育を提供するシステムがあり、開始時期は保護者によって決められる。無償ではないが、家庭環境に合わせて税金補助があり、幼稚園・保育園 (child daycare center) のほかに家庭的保育・夜間保育など、複数の形態がある。ECEC では、発達・学習・ウェルビーイングを支えることを大切にしており、「子どもを平等に扱う」「広い視野を持たせる」「将来のことを考えられる基盤築く」ことを大切に保育している。

6歳になると就学前教育(0学年)となり、フィンランドにおける義務教育開始となる。オウル市は、ほとんどの保育施設で0学年教育が行われているが、ほかの自治体では学校で行われることも多い。教育といつても読み書きや算数ができるということではなく遊びの延長で個々にあったプロジェクトをしていくなかで「どのように表現するのか」「環境に応じてどう行動できるか」を大切にしている。

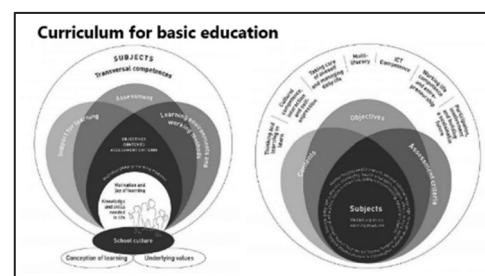


オウル市の就学前教育について

4 フィンランドの基礎教育

日本における小学校・中学校にあたる1年生から9年生までの子どもが対象であり、教育が無償のうえ、医療関係のサービスもすべて無償となる。1年生から6年生は基本的には担任制で(1・2年生は同じ担任になる場合が多い)、7年生から9年生は専門教科ごとに教師が変わるために、7年生への進学時は子どもにとってかなり環境が変わる。公立校は、家から一番近くの学校に通うが、学校までの距離が遠い場合、交通費の支援もある(地方だと80%くらいの該当児がいる)。

年間教育日数は190日、授業時間は週20~30時間と少なく宿題もない。1年生から生徒会があり、自分たちの行動が学校教育にどう影響を与えるのか、を教育していく。各教科において生徒の目標が決められており、6年生と9年生に目標に対する評価をする。目標は①思考と学び方を学ぶ②文化的適応力・相互交流と自己表現③自己管理と日常生活の運営④マルチリテラシー⑤ICT能力⑥労働生活能力と起業家精神⑦参加・インターアクション・持続可能な未来の構築であり、9年生の評価を基に進学先が決まる。



右図上部が7つの目標

5 フィンランドの高校・職員訓練校

基礎教育が修了すると、高校または職業訓練校へ進学するが、より多くの時間・サポート・準備を必要とする学生のために、1年間の準備教育プログラムもある。

高校は通常3年(生徒によっては2~4年)で一般教養を学び、卒業時には大学進学のために国家試験「Matriculation」を受ける。試験に合格すると大学・応用科学大学・職業訓練校へ進学することができる。

職業訓練校では専門分野ごとの基本的な技量と、職業的な能力を習得でき、職業基礎資格(職業資格・特別職業資格)を取得できる。



説明を受ける研修員

6 おわりに

フィンランドの教育は、すべての子どもが平等に質の高い教育を無償で受ける権利を持ち、社会的地位が高い教師が教育の質を保ち続けている。その背景には国・自治体・教育施設が連携し、信頼し合いながら子どものために日々教育を追求し、発展し続けているからと強く感じた。まっすぐな目で穏やか、かつ情熱的に語るMaikki氏の説明は、自身に教育観を見つめなおすきっかけを与え、これから始まる視察への期待感を増してくれるものであった。



集合写真

<出典>

フィンランド国立教育庁 (EDUFI) : <https://www.oph.fi/en>

City of Oulu :

<https://www.ouka.fi/oulu/english/information-about-oulu>